

合エラストマー100重量部に対して0～200重量部、より好ましくは5～100重量部である。軟化剤の含有量は被着体や粘着特性を考慮して適宜調節される。

[0034] なお、本発明において使用される軟化剤の製品は、粘着剤のタック(ここで、タックとは粘着性の一種で、非常に軽い力で、被着体に接触後、短時間に接着力を発揮することができる機能を意味する)、あるいは低温時における粘着性を調整する機能を有する製品であれば前記製品類には限定されない。

[0035] 本発明において使用される「オレフィン系熱可塑性エラストマーの共重合体」とは、エチレン、プロピレン、1-ブテン、直鎖状および分岐状の1-オレフィン等からなる群の中から選択される2種以上のオレフィンからなる共重合体を意味する。限定されない例としては、住友TPE、出光TPO、デュポンダウエラストマーのエンゲージ等、非晶性であるものには住友化学(株)製タフセレンなどが挙げられる。

[0036] 本発明において使用される「各ドメイン」とは、ブロックやグラフト共重合体において、10nm次元の分離相をドメインと呼ぶ。

[0037] 本発明において使用される「オレフィン系熱可塑性エラストマーが非晶性である」とは、オレフィン系熱可塑性エラストマーが、結晶部分を持たないことを意味する。限定されない例としては、住友化学(株)製タフセレンなどが挙げられる。

[0038] 本発明において使用される粘着付与樹脂のガラス転移温度( $T_g$ )は、90°C以下、好ましくは90°C～150°C、より好ましいのは80°C～100である。

[0039] 本発明において使用される「酸化防止剤」とは、酸化劣化による粘着剤の粘着力の変化および凝集力の低下を防ぐ機能を有する物質を意味する。酸化防止剤には、例えばフェノール系酸化防止剤、フォスファイト系酸化防止剤、チオエーテル系酸化防止剤等などが挙げられ、必要に応じて、本発明の目的を損なわない範囲(例えば、オレフィン系熱可塑性エラストマーまたはオレフィン系熱可塑性エラストマーとスチレン系共重合体との混合エラストマーに対して5重量部以下である)で本発明に記載の粘着剤に前記酸化防止剤の少なくとも1つを配合できる。酸化防止剤の製品には、例えば、川口化学工業(株)製のアンテージW500、W400、W300、BHT、SP、DBH、DHA、Crystal、住友化学工業(株)製のスマライザーTPL、TPPなどが挙げられるが、酸化劣化による粘着剤の粘着力の変化および凝集力の低下を防ぐ機能を有す